

タバコのモザイク病防除について

津 曲 彦 寿*

Tsumagari, H. Control of Tobacco Mosaic

近年タバコ産地で mosaic 病特に Cucumber mosaic 病が地域的に集団発生傾向を示している。これは年々発生した病が地域を構成する寄主集団群に感染累積し、地域における感染源の密度が高くなつていくことと、病媒媒介者であるモモアカアブラムシも亦特定の地域に Colony 形成の傾向があるからである。タバコの mosaic 病防除は病原媒介者をタバコ作以前の寄主上で殺滅する、タバコの健康を保持することと、病体を救済して質と量の最大限の確保するの手段を講じ、総合的防除対策を図っているが、実際産地では地域を構成する植作物の集団を考慮に入れた防除対策を以てせねば、タバコ1作の防除施術のみで、その実を挙げることは困難である。鹿児島県山川町大山部落は従来タバコの産地であつたが、昭和27~28年は病害のため惨害を蒙つた地で、29年度も大根、ソバ、蔬菜類及び雑草類の発病状態並に蚜虫発生予察の状況から危まれていた。耕地面積130町歩の内タバコ44町、馬鈴薯5町歩、ソバ、大根及び蔬菜類16町、タバコ49町歩を作付された大山部落で集団防除を実施した。期間—昭和28年10月~29年8月。蚜虫駆除、植作物病株の処分には農家、非農家全部落民が団結してこれにあたり、タバコ作では特に次事項を耕作様式に組入れて実施した。

実施した防除対策 A. タバコ作前及びタバコ作期間内における感染源の消滅 (1) 28年作タバコ残幹根早期処分、(2) ナタネ、大根、ソバ、雑草及び花卉類の不用病株の処分及び蚜虫一斉駆除、(3) タバコ麦刈り出し期における作業の統制(タバコ以外の植作物に対する薬剤散布→ナタネ刈り取り→ナタネに対する薬剤散布→タバコ麦の刈り取り。なお作業は一斉短期間に実施)

B. 健全植物の保護育成 (1) 子葉を保護するための育苗、(2) 根を保護する管理、(3) 肥培の適正。

C. 病株救済 (1) 初徴時におけるK肥の補給、(2) 収穫乾燥及び貯蔵法の適正。

* 日本専賣公社鹿児島たばこ試験場

結果 蚜虫の発生状況 作物によつてリンデン、BHC、硫酸ニコチンまたはヒトンを使った。大山部落と隣接の同一環境と思われる部落と比較し、防除地では有翅虫発生の方がつきりしたが低くなつた。

実施前後における病害の比較
タバコ以外の作植物

植 物 名	28年度	29年度	差
	発病率	発病率	
時 無 大 根	88.60	2.9	- 85.70
ナ タ ネ	87.11	(0.2)	(- 86.91)
ソ バ	59.12	0.8	- 58.32
ケ イ ト ウ	44.00	11.2	- 32.80
ツ ユ ク サ	40.70	23.6	- 17.10
エ ノ キ グ サ	66.46	0.2	- 66.26
ヨ モ ギ	42.86	34.3	- 8.56
ス ベ リ ヒ ユ	100.00	0.9	- 99.10
タ デ	13.95	8.6	- 5.35
タ カ サ ブ ロ ウ	75.00	0.8	- 74.20
ヨ メ ナ	73.42	1.7	- 71.72
コ ミ カ ン ソ ウ	31.30	2.3	- 29.00

タバコ

28年度89.7%発病に対し集団防除を実施した29年度は0.57%に止めた。

収 納 成 績

区 域	区 別	kg当 金額	反当	反当
			収量目	賠償金額
			kg	円
山川町園児ケ水	対照区	373	166	61,840
	浜児ケ水	373	149	55,494
	福 元	348	153	53,376
	成 川	344	138	47,320
	小 川	369	144	53,053
	大 山	393	147	57,914
〃 (試験区)	試験区	411	161	66,357

以上の通り防除実施地域は前年と比較、または附近の地域と比較して病害も少く反当収益も遙かに上廻つた。

なおナタネ、大根、ソバ及びその他関係作物も増収になつたことは言うまでもない。病害防除は集団が一斉に立ち上らねばならないことが立証されるが、更にこの実を挙げるためには、地域の作物の作付及び収穫期節の個人間のずれを可成短縮することを強調したい。